

## 令和2年度 第1回 山形県文化財保護審議会議事録

日時:令和2年9月16日(水) 13:30~16:00

場所:県庁10階 1001会議室

### <各委員の主な意見>

#### 議題1 県指定有形文化財の指定について

##### <笹野観音堂>

- 仏師や大工などの職人たちが笹野観音堂に通ってどのように作業したのか、文書にも記載が無いので郷土の仏師の作品も調査して研究いただきたい。
- 置賜地方における羽黒修験と熊野修験の関わり合いについて、両者が折り合いをつけて住み分けをしていたことが興味深い。長井や白鷹など熊野修験の非常に強いところに、羽黒の影響があったのは事実だと思う。建物の前と後ろで熊野の千手観音と羽黒の聖観音が共存しているところが面白く、研究のし甲斐のあるところだ。
- 天保の大飢饉の後に再建されたということで、地元の人々の熱意を感じる。全体の大きさの割に造形の緊密感があり、人々の思いが詰まった素敵な建造物だと思う。この大きさの建物に動植物の彫刻をつけて、中には龍の子供などもあり、発想豊かでクリエイティブ。これに携わった建築家や仏師がこの時代に出会ったことが素晴らしい。
- 茅葺屋根は数年前に替えており、他に雨もりや蜂の巣などがあつた際に適宜修理をしている。定期的なメンテナンスはしていないが、注意して維持管理していく必要があるので、今後修理していく必要がある。
- 灯籠について、天保の再建の時に建てられたのであれば非常に独自性が強いので、建築に関連するものとして保存していく手立ては無いだろうか。史跡としての構成要素も一緒に調査すれば価値の高いものかもしれない。

#### 議題2 県指定天然記念物の指定解除について

##### <臥竜のマツ>

- 元気なうちから対策をして保護していかないと、樹齢の古い樹木は枯れてしまい、指定されている記念物が無くなってしまうのではと思う。対応を見直していく必要がある。
- 自然のままに状態を保つのは難しく、リスクがある。樹脂を注入して造形物を残すことは大ごとではないので可能である。
- 松類は土壌や菌類と関係があつて、土壌や菌の微妙な変化で影響を受ける木であるため、少しでも兆候が出ると枯死まで早い。450年生きてたので残念で

ある。

- 天然記念物としては枯れたから指定解除をして終わりとするのではなく、映像など何らかの形で、これからも伝えるものが必要かどうかを整理しないといけないのではないか。
- 赤松は非栄養な土壌を好む。栄養が多いと雑菌が増え、さらに気候の関係もある。雨の影響や人の活動など全体を見ると、松にとっては住みにくい環境になっている。

### 議題3 その他

<文化財課知事部局移管について>

- 文化財課が組織改編されると、ニーズが減らされて、職員の方々の業務量が増えることがある。文化財は地域のアイデンティティであるため、しっかり舵取りしていただきたい。